

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 下呂特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)

2 開催日時 令和8年2月2日 (月) 9:30~11:30

3 開催場所 下呂特別支援学校多目的室
開催にあたり、委員による授業参観
※小中学部：教科 高等部：作業学習を実施した。

4 参加者

会長	長谷川和正	株式会社ハウテック (総務部長)
副会長	細江 節子	下呂市単位民生委員児童委員協議会 (主任児童委員)
委員	桐山 啓	下呂市小川区長
	今井 広一	加子母むらづくり協議会 (教育分科会)
	目次 丈太	佐橋工業株式会社 (萩原工場 工場長)
	井口フキ子	益田山ゆり園 (施設長補佐)
	川口 春美	下呂市障がい者生活相談センター (相談員)
	西垣内弘子	下呂市福祉部こども家庭課 (対策監)
	二村 善樹	下呂特別支援学校PTA会長 (欠席)

学校側	熊崎 礼子	校長
	林 哲治	教頭
	熊崎 高志	事務長
	原 るみ子	小中学部主事
	小栗 豊石	高等部主事
	石原さゆり	教務主任

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 令和7年度下呂特別支援学校自己評価について

学校：安全管理の取組状況、実践内容についてシェイクアウト訓練、ヒヤリハット・アクシデント事例の報告システム、こころの相談アンケート、不審者対応訓練の事例を通して報告した。

意見1：シェイクアウト訓練の様子を動画で見て、大変重要な活動だと感じた。自然災害はいつ起こるかわからないので万一の際にも冷静に対応できるよう備えが重要である。児童生徒の安全を守る教員が、まず自身の安全確保に留意する必要がある。

意見2：今年度、学校行事参観の折に地域の消防関係者と一緒に校舎内の設備を見せてもらった。今後も地域と学校が連携し、防災体制を整えていきたい。

意見3：児童生徒のそれぞれの障がいへの丁寧な対応により、大変よい支援がなされている。保護者とも課題を共有し、継続した支援を行えるとよい。

- 学校： 教育活動・学習指導の取組状況、実践内容について、全ての教員の公開授業、交流籍交流、共同学習の事例を通して報告した。
- 意見1： 少人数であるという学校の特性から、他校との交流籍交流や共同学習を積極的に進めている点は、大変よい取組である。今後もできるだけ多くの同世代の児童生徒や人々と交流できる機会を大切にしていけるとよい。
- 学校： 保護者・地域との連携の取組状況、実践内容について、保護者との協働的な関係の構築（PTA活動）、「湯ヶ峰太鼓（高等部総合的な探究の時間）」の持続的な取組、高等部作業製品バザーの発展的な取組の事例を通して報告した。
- 意見1： PTA活動を工夫しながら継続している点は大変に素晴らしい取組である。
- 意見2： 太鼓演奏で地域の福祉事業所のイベントを盛り上げている。卒業生である利用者と交流することもでき、今後もこのような関係を続けるとよい。
- 意見3： 中学部から和太鼓の活動を始めるという話があつたが、現状はどうか。中学部から取り組むことで、よりスムーズに和太鼓に取り組むことができると思う。
⇒今年度から、部活動の時間にスポーツや美術に加え、活動の一環として和太鼓を取り入れている。
- 意見4： 高等部のバザーについて、地域の方より参加してとてもよかったですという評価を聞いている。今後も地域に参加を呼び掛けていきたい。
- 意見5： 作業製品バザーの参加者が多くなり、作業製品がすぐに売り切れてしまい、買う製品がない状況はなかつたか。
⇒完売する商品はあったがいくつかは残る製品もあり、そういう状況はなかつた。
- 意見6： 作業製品バザーは、規模が大きく盛大になり、楽しさが増える一方で、多くの来場者が集まることによる安全面のリスクも生じてくる。今後は、安全対策についても十分に検討していく必要がある。

（2）その他（授業参観の感想及び提言等）

- 意見1： 1年間で児童生徒が心身ともに大きく成長していることを実感した。
- 意見2： アナログ教材とデジタル教材を効果的に組み合わせた指導が行われており、大変よい。
- 意見3： 読み聞かせの授業を参観し、子どもたちが本に親しみことの大切さを改めて感じた。地域の読み聞かせサークルの方から地元の民話や昔話を教材にしてもらえると、この地域の歴史文化に親しみがもててよい。
- 意見4： 熊出没の問題は、今後も継続していく。児童生徒の安全確保については、何が起こるかわからないからこそ、引き続き十分に検討し、対策を講じていくとよい。

6 会議のまとめ

- 出席委員より令和7年度下呂特別支援学校自己評価について承認が得られた。
- 学校の安全管理について一定の評価が得られたが、熊対応を含め自然状況については予断をもつことなく状況に応じた対応の重要性について確認できた。
- 縦割り集団による活動、交流籍交流、共同学習、地域での活動などその意義が再評価され、継続的な取り組みの必要性について確認できた。

<今後の課題>

- 様々な状況に対応できる安全管理の持続的な取り組みと防災に関して地域との連携を図る。
- 児童生徒の多様な学びの場を保証するための異年齢集団、校種間交流、地域との連携の意義を再確認し、持続していく。
- 学校職員と保護者との協働的な関係の形成を基盤に児童生徒の健全な発達を促していく。